

# ひとミュージアム上野誠版画館会報

NO53 2022年5月1日(日) ひとミュージアム上野誠版画館(026-283-2251)

## 上野誠「働く人への思い」展

会期 2022年5月11日(水)~7月31日(日)

上野誠は初期の「波止場」(1937)から後年の「働く炭焼き」(1970)まで生涯働く人を描きつづけた。描く対象は農民から港湾労働者、工場労働者、漁民、職人、商人とさまざまであるが、いずれも温かいまなざしで描いている。



波止場 1937



なっとう売り 1955



働く炭焼き 1970

同じ働く人を描いても初期の画風と後期の画風は大きくちがっている。初期のものはリアリスティックに描かれており立体感、量感が豊かである。中期の作品は量感ではなく形態や表情に重点が置かれている。後期の「働く炭焼き」はカメラのシャッターを切ったような一瞬の形の面白さを強調している。

## 上野誠原爆展

会期 2022年8月3日(水)~8月28日

ギャラリートーク: 8月9日 14:00~16:00(日) トークは館長が行います

上野誠は1961年7月13日から8月3日まで長崎を訪問し、原爆病院や自宅で被爆者と合って、被爆当時の話を聞いたりスケッチをしたりしている。

それをまとめたのが掌品「原爆の長崎」である。そこには見たことのない風景を様々な技法を駆使しながら描き出しており、上野版画後期の原点が読み取れる。



ヒロシマ三部作「男」



掌版「逃げる」